

館長あいさつ 2
 博物館アルバム(平成29年度後期)..... 3~5
 新収蔵品紹介 6
 平成30年度の催し物について 7・8



《十六羅漢図》第14幅



《仏涅槃図》(部分)

《仏涅槃図》など妙興寺の美術品が一宮市博物館に寄託されました！

永らく京都国立博物館に寄託されていた妙興寺所蔵・重要文化財《仏涅槃図》が、このたび一宮市博物館の寄託となり、70年ぶりに二宮市に戻ってきました。《仏涅槃図》は、古社寺保存法によって、明治三十七年(一九〇四)八月二十九日に旧国宝として指定を受け、その後昭和二十五年(一九五〇)の文化財保護法によって国の重要文化財に再指定されました。

《仏涅槃図》の大きさ(括弧内は表装を含む)は、縦三三二・六センチメートル(約四三〇センチメートル)、横二九〇・二センチメートル(約三四〇センチメートル)で、鎌倉時代の涅槃図としては全国的に見ても最大級のもので、仏の肉身を金泥で表し、衣を彩色で表す表現は、中国宗時代の様式を反映しており、十三世紀の制作と推定されています。

本図が妙興寺の所蔵となった時期については、『妙興寺散歩』(一九八二年)では文明十年(一四七八)とあり、愛知県史編さん室『愛知県史 別編 絵画』(二〇一一年)では箱書に基づき大永四年(一五二四)頃としています(現在の箱書には貞享三年(一六八六)とある)。しかし、今回、表装裏面の2枚の貼付紙(①寛永八年(一六三三) 妙興寺住職全用喝堂 ②貞享四

年(一六八七) 同職・南梁密鍼)を詳しく見た所、寛永八年(一六三三)に妙興寺にもたらされたことが分かりました。

貼付紙によれば、本図は、もと京都泉涌寺(真言宗泉涌寺派)の所蔵だったのですが、応仁の乱の頃に紛失し、長谷川道慶入道が買い求め泉涌寺へ寄附しました。その後、大永二年(一五二二)に修理され、紆余曲折を経て寛永八年に柳生兵庫助利厳と長野数馬忠成の二人によって、現在、妙興寺の所蔵となる《十六羅漢図》十六幅や《道仏二教諸尊図》四幅とともに、修理して寄進されたとあります。このように来歴の分かる涅槃図は珍しく、数奇な運命を辿って京都から尾張の地にやってきました。

当館には昨年、妙興寺所蔵の《足利義教像》や《白衣観音像》、《豊太閤画像》なども寄託されました。今後、博物館では、作品の状態などをみて順次公開していく予定です。その第二弾として、中国・元の時代に描かれた《十六羅漢図》を、三月二十七日から二階特集展示コーナーで展示いたします(詳しい予定は八頁をご参照ください)。尾張の禅宗の古刹・妙興寺に伝わる名宝は、二宮市にとって重要な遺産です。博物館では今後、これらの貴重な作品の保存と公開、研究につとめていきたいと思えます。

(学芸員 石黒智教)

館長あいさつ

私が当館に赴任してからもう1年が経過しようとしています。早いもので、平成30年3月末で定年退職を迎えることとなります。1年前、この短い間に私にできることは何か、考える前にすぐに行動しました。まずは博物館、美術館、資料館職員の皆さんとのコミュニケーションをとるため何度も訪問し、また現地の様子も確認しました。メールをやりとりすることは事務上の伺いや報告には適しますが、メールでは相手の感情が伝わってこないのです。直接電話や、対面して話すことが大切であると思っています。

またこの1年間、博物館周囲の季節の移り変わりや事業内容の様子をたくさん写真に撮ってきました。この周辺の景色は毎日見ても飽きませんでした。早朝から聞こえる鳥たちの鳴き声、様々に咲き誇る花々や移り変わる木々の色、多くのクモの巣や毛虫たちそして蟬の鳴き声。長年、市役所の中にいたら経験できないことです。撮影した画像データは私の大切な宝物となることでしょう。

この短い期間ではありませんでしたが他都市の博物館や美術館などを見学し、歴史や芸術文化について益々興味が深まってきました。しかしながら深刻な課題にも気づきます。一宮市のような地方都市における中小規模の博物館がこれからも継続して開館するためには予算や維持管理など様々な問題があり、縮小していく予算の中でいかに地域の住民に愛される文化施設になるかが重要です。

博物館が住民の心に残る事業内容を実施するときには、人の五感に訴えるものが重要であると思います。五感とは視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚です。視覚についてですが、残念ながらどの館も全盲の方に対応した施設ではありませんが、視力の弱い高齢者のためには展示物の解説文を太く大きな文字で表示しなければならぬと思います。解説イヤホンが予算上困難なので読みやすい解説文は重要です。聴覚については、まず、静かで話をしてはいけない施設でなく、小声で感想を人に伝えるなど、話をすることは良いことだと考えることです。また展示物に関する効果音やBGMも時には有効であると考えられます。触覚については、関連イベントやワークショップを積極的に展開し、モノに触れたり体験できたりする機会を増やすことも重要です。これらの試みはすでに実施している催事がありますが、もっと推進していくべきであると思います。さらに考えられることは嗅覚と味覚です。この嗅覚や味覚を活用した催事を実施した博物館はあるでしょうか。

平成29年度の「新収蔵品展」では珍しい銅鑼を展示しましたが現物を見ているだけではわかりにくいので実際に音を鳴らした動画を閲覧できるようにしました。「川合玉堂展」では作品の元となった民謡をBGMで流しました。夏期小展示の「なんで穴が開いているの」では子供たちが考え、また楽しめるような様々な工夫をしました。このように当館の学芸員が頑張ってくれたおかげで今年度の特別展・企画展の入場者数は前年比約10%の増、そし

て総観覧料は同じく約20%の増額となりました。

一宮市博物館には貴重で多種多様な、膨大な数の収蔵品が保管されています。ただ並べるだけでは人は見に来ませんが、アイディア次第では面白い展示会が何回も開催できるチャンスはあると思います。記録よりも記憶に残る、また多くの人が、いつでも学びながら生きていく楽しみを味わえる施設として、長く存続することを切に希望したいと思います。(館長 庄司哲也)



11月



4月



2月



5月

特別展
「没後60年 川合玉堂 移ろう四季と人々の暮らし」

開館30年を迎えた二宮市博物館にて10月14日から11月26日まで、玉堂の生誕地に建つ二宮市立玉堂記念木曾川図書館にて10月14日から22日までと11月1日から8日まで開催しました。

出品作品は所蔵品のほか、玉堂美術館(青梅市)、青梅市立美術館、大松美術館(岐南町)、パラミタミュージアム(孤野町)から貴重な作品をご出品いただきました。また個人の方からも拝借し、全部で44点の作品を紹介することができました。玉堂美術館からは、京都での修行時代に描かれた写生帖の高精細の複製画も多数お借りし、まとまってご覧いただきました。優れた筆運びや鳥の羽根の質感表現、草花の精緻な表現などに、多くの方が見入っておられました。また、木曾川図書館では、玉堂の弟子で、玉堂生誕地碑の建立にも尽力した児玉希望の作品も特別展示することができました。これにあたって生誕地碑の設立経緯を当時の新聞等で調べるとともに、設立に関わった方々から聞き取り調査をして図録の巻末にまとめ、展示でもご紹介しました。

講演会は、木曾川図書館建設や玉堂作品の収集に尽力された元木曾川町長の山口昭雄氏と、長年玉堂の研究をしている岐阜県美術館学芸員の青山訓子氏を講師としてお招きし、図書館と妙興寺公民館それぞれで開催しました。いずれも有意義な講演内容で、二宮市木曾川町出身の偉大な日本画家に対する興味と知識を深めることができました。

響にも関わらず、期間中、博物館には5,097人、図書館には1,010人の来場がありました。博物館受付にて玉堂のグッズの販売も行い、館のSNSに展示室入口のタペストリーの写真をアップしていただいた方には、抽選で筆箋などをプレゼントしました。

博物館では今後、木曾川図書館の玉堂記念展示室での市所蔵の作品の展示を中心に、ふるさとの画家として皆様にご紹介していきたいと思えます。

(学芸員 杉山章子)



博物館 展示風景 (写生帖)



玉堂記念木曾川図書館 展示説明

企画展「くらしの道具〜昔の遊び・今の遊び〜」

平成30年1月13日(土)〜3月11日(日)

平成三年度から続くこの展覧会も今年で二十七回目になりました。インフルエンザの流行で見学が延期になった学校もありましたが、今年度も、市内の小学校三年生が訪れることができました。石臼をひいて重さを感じたり、長着とわら草履の感触を確かめたりして、昔の生活を楽しく学んでいました。

また今回のテーマは「昔の遊び・今の遊び」とし、メンコ、ビー玉、お手玉、ホッピングなど昭和の玩具を中心に展

示しました。大人が子ども時代を懐かしむ声が多く聞かれ、子どもたちに遊び方を話している場面もよく見かけました。

会期中のイベントは、ほとんどで定員がいっぱいになるという盛り上がりを見せました。「昔の遊びをやってみよう!」では、ボランティアさん目当てでリピーターの子どもたちが多く訪れ、館内は子どもたちの楽しげな声が終始あふれていました。(学芸員 瀧はる香)

■「昔の遊びをやってみよう!」

1月13日(土)・20日(土)、2月17日(土)、

3月11日(日) 各日午後1時〜4時

■「日本のたこをつくろう!」

1月14日(日) 午後2時30分〜3時30分

講師/澤木寛氏(日本の凧の会尾張二宮支部会長)

■「ワラ刀をつくろう!」

1月28日(日)、2月17日(土)

各日午前10時〜10時30分、午後3時〜3時30分

■「坊主めぐり大会〜百人一首で遊ぼう!〜」

2月12日(月・振) 午前10時〜、午前11時〜、

午後2時〜、午後3時〜 いずれも30分ごと



展示風景



昔の遊びをやってみよう!

あいちトリエンナーレ地域展開事業

「織り目の在りか 現代美術 in 一宮」
平成30年1月20日(土)～2月12日(月・振)

愛知県と連携のもと、県民の方々に文化芸術への関心を高めていただくとともに、「あいちトリエンナーレ2019」の開催気運の醸成を図ることを目的として、現代美術展及び出展作家によるトークイベントやワークショップなどを一宮市内各所で開催しました。オリナス一宮をはじめ、旧林家住宅など市内5会場に10人の作家が出展しました。

24日間に及んだ会期中には、約4万5千人の方々にご来場いただき、現代美術の斬新さや豊かな可能性を体感していただくことができました。

また、本展覧会に先駆け、出展作家を講師として学校へ派遣し、作家の作品に込める思いや制作方法を見学生徒に伝え、自由な発想を育てる学校派遣事業を実施しました。(主査 伊藤俊輔)

会場

オリナス一宮、墨会館、旧林家住宅
一宮市役所本庁舎、トピル

出展作家

小川育、川田知志、河村陽介、城戸保
杉山卓朗、姫田真武、松本崇宏
三上俊希、宮田明日鹿、百瀬文



10月4日 一宮響学校



11月29日 千秋東小学校

■学校派遣事業
平成29年10月4日(水)
一宮響学校(講師：宮田明日鹿)
平成29年11月5日(日)
木曾川東小学校(講師：河村陽介)
平成29年11月29日(水)
千秋東小学校(講師：松本崇宏)



オリナス一宮の展示作品



いずれも撮影 怡土鉄夫 旧林家住宅の展示作品

民俗芸能公演

一宮市域には江戸時代より続く伝統芸能や祭りが伝承されています。博物館では、民俗芸能の伝承保存事業の一環として、博物館において年1回「民俗芸能公演」を開催しています。

■2月11日(日)市指定無形文化財「島文楽」島文楽保存会

■2月18日(日)県指定無形文化財「ばしょう踊」ばしょう踊保存会

■2月25日(日)市指定無形文化財「宮後住吉踊」宮後住吉踊保存会

いずれの保存会も、後継者問題を抱えています。郷土に残された民俗芸能に少しでも興味をもつていただければと思います。

また、これまで2月～3月に実施していましたが、実施時期の変更に伴い、平成30年度は一時休止し、平成31年度から5月～6月に実施いたします。

(学芸員 石黒智教)



ばしょう踊



島文楽



宮後住吉踊

企画展 2017 一宮市現代作家美術秀選展

平成29年12月2日(土)～17日(日)

第75回一宮市美術展の成果等をうけて、一宮市美術展市長賞受賞作品、各協会に所属する現代作家などの作品を展示しました。



現代美術作家秀選展

たいけんの森

10月から12月は、特別展「没後60年 川合玉堂」の開催に関連し、「ちいさなかけじく」と題して、「ストローや和紙を用いて、小さな掛け軸を作り、玉堂の作品図版を飾りました。1月から3月は、「ミニ凧こまづくり」を開催。画用紙と爪楊枝で作るこまや、色紙のかわいらしい凧を作って大事に持って帰る子どもたちの姿が見られました。



たいけんの森

博物館キッズクラブ

平成29年度の後半は、2回の活動をしました。10月28日(土)は、ワークシートに記入しながら特別展を見学し、川合玉堂の風景画に見られる日本の四季の移り変わりの繊細な表現を楽しみました。1月28日(日)は、尾

西歴史民俗資料館別館の旧林家にて、現代美術家の作品を、担当学芸員の案内で見学しました。出品作家のワークシッブにも参加し、昔なつかしい編み機で、自分の年齢の分の列を順に編んでいきました。歴史ある建物で現代美術を鑑賞するという貴重な機会を楽しむことができました。



キッズクラブ

市民文化財めぐり

平成29年11月1日(水)

市民の皆さんに、郷土の貴重な財産である文化財を紹介して、先人を偲び、文化財愛護の精神を高めていただくために、昭和42年以来、毎年「市民文化財めぐり」を開催してきました。

今回は、地藏寺～小塞神社～妙光寺～木曾川資料館～玉堂記念木曾川図書館～博物館というコースを巡りました。参加者は解説者の説明に熱心に耳を傾け、メモをとっていました。



市指定文化財・天然記念物「地藏寺のイチイガシ」を解説する市文化財保護審議会近藤修委員

文化財防火デー関連行事

文化財パトロール 平成30年1月16日(火)
文化財防火訓練 平成30年1月25日(木)

昭和24年1月26日に、奈良・法隆寺金堂壁画が焼損しました。以来、この日を「文化財防火デー」と定め、1月26日を中心として文化財を火災、震災その他の災害から守るため、全国的に文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護思想の高揚を図ることになっていきます。

市教育委員会(博物館)は、市消防本部とともに、1月16日に防火指導や防火用設備等の点検をする文化財防火パトロールを実施しました。また1月25日には、市三条の御裳神社境内において、拝殿からの出火を想定した防火訓練を実施しました。



文化財防火パトロール



御裳神社での防火訓練

古文書講座「古文書にしたいしむ」

5月から2月まで全10回の講座を開催しました。今年度は「荻安賀村船橋家文書」をテキストとし、グループ内で、読み合わせをするなど、楽しく学んでいました。



古文書にしたいしむ

新収蔵品紹介

佐分眞「婦人像」



制作年不詳、60.0×49.8cm
油彩・キャンバス

佐分眞（1898・1936）は、名古屋の生まれですが、父は第六代宮町長を務めるなど二宮の発展に尽力し、母は妙興寺仏殿の再建に貢献したことから、当館では、これまで二宮ゆかりの画家として作品の収集をしています。本作品には西洋の女性と思われる人物が描かれており、1927年から1930年までと、1933年から翌年までのパリ留学中に描かれた作品ではないかと思われます。この頃、佐分眞は、アリスまたはギャビーという名の女性をモデルに、しばしば人物画を描いていました。豊かな色使いと大らかなタッチに、佐分眞の人物画に特有の雰囲気が出ています。作品裏面に「遺作展出品 昭和11年」のラベルが付されており、1936年4月23日に佐分眞が急逝した後、同年9月19日から5日間、銀座松坂屋にて開催された遺作展に出品されたことが分かります。

佐分眞「水指のある静物」



制作年不詳、37.6×60.6cm
油彩・キャンバス

水指やナプキン、そして色とりどりの果物が、青いクロスを敷いたテーブルの上に配されています。壁や机のグレーを背景に、水指とナプキンの白色が、果物とテーブルクロスの鮮やかな色を際立たせています。また、テーブル右端の赤色は、左端の青いりんごにスッと差した赤色と呼応し、全体の色のバランスが整えられています。赤、青、黄の原色の配置に工夫のこらされた作品です。

佐分眞の作品は、2階特集展示コーナーにて、12月1日（土）から平成31年1月27日まで開催の「尾張の洋画 佐分眞」にて展示予定です。

横井礼以「白衣の少女（叡子白衣像）」



大正10(1921)年作、60.0×49.8cm
油彩・キャンバス

横井礼以（1886・1980）は、現在の弥富市に生まれ、東京美術学校を卒業しました。その後、光風会展や文展に出品していましたが、マチスなどの影響を受け新しい作風に関心が移ると、大正7年から二科会に参加するようになりました。本作品もフォーヴィスム時代のマチスを思わせる濃密な色使いと強いタッチで、7歳になった長女を描いています。フォーヴィスムやキュビスムなど西洋の新しい作風の影響を受け、大胆で清新な表現を求めた大正時代の若い画家たちの熱意が伝わってくるような貴重な作品です。なお、『横井礼以画集』（2016年、名古屋画廊）の巻末に参考作品として図版が掲載されており、1922年の第9回二科展・第16回サロン・ドートンヌ（パリ）・第10回二紀展に出された作品であることが分かります。

（学芸員 杉山章子）

展覧会

企画展 幸せをよぶ花鳥画展

6月2日(土)―7月8日(日)

夏季イベント 博物館で夏祭り!

7月21日(土)―8月26日(日)

企画展 2018 一宮美術作家協会展

9月1日(土)―9月16日(日)

企画展 一宮写真協会選抜写真展

9月20日(木)―30日(日)

企画展 2018 一宮市現代作家美術秀選展

12月1日(土)―16日(日)

企画展 くらしの道具

1月12日(土)―3月10日(日)

講座・公演

講座 尾張平野を語る23

「尾張の宗教」をテーマに7月～8月頃に開催予定。

公演 民俗芸能公演

平成30年度は開催せず、従来とは時期を変えて、平成31年5月頃に「ばし踊り」などを催します。

企画展 幸せをよぶ花鳥画展

一宮市博物館に所蔵あるいは寄託されている絵画には、江戸時代の繊細な花を描いた作品や、鳥や猿などの動物を精緻に描いたものが多数あります。

東洋の絵画では、植物や様々な生き物をテーマとした作品は、「花鳥画」と総称されています。日本の花鳥画は、室町時代から江戸時代にかけて中国美術の影響を強く受けながら発展し、子孫繁栄や五穀豊穡、長寿、立身出世などの願いが込められているものが多くあり、それらの図像的な伝統は近現代の日本画にも受け継がれています。

本展覧会では、花鳥画のほか、吉祥文の工芸品なども併せてご紹介します。当時の人々が、幸せへの思いを植物や動物に託して描いた作品や美しい工芸品の数々をお楽しみいただければと思います。



【出品予定作品】森半逸 《華果競香之図》

(若栗神社八幡宮蔵・一宮市博物館寄託)

果物や野菜、壺に挿した豊かな菊の花束などが鮮やかな色使いで描かれています。よく見ると、不老長寿の意のある桃や仏様の手のような形の仏手柑のほか、たくさんの種があることから多産の意のある石榴など、

縁起の良いものばかりです。かごの中には色々な落款が押されていて遊び心に富んでいます。描いたのは、栗栗郡島村に生まれ、岐阜に転居して画家として活躍した森半逸(1848―1949)。本作品は、若栗神社の県社昇格を祝して奉納されたものです。郷里の慶事を喜びながら描く作者の姿が想像されます。

(学芸員 杉山章子)

空調設備改修工事にもなう 休館について

一宮市博物館は、平成30年10月2日(火)から11月30日(金)まで老朽化した空調設備の改修工事をするため休館いたします。当館の空調設備は昭和62(1987)年の設置後、30年以上が経過し、老朽化が進んでいます。今回対象となる空調設備は、展示ホールおよび常設展示室の空調機の熱源となる冷温水発生機です。皆さまには大変ご不便をおかけしますが、良好な施設環境を確保するため、ご理解をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、工事期間中の博物館の事務所の業務は、月曜日から金曜日の午前8時30分から午後5時15分までとなります。

特集展示コーナー

2階展示室2・3にて、博物館の所蔵品や寄託品を様々なテーマで順次ご紹介していきます。

妙興寺の名宝 十六羅漢図 (重要文化財)

前期 3月27日(火)～4月30日(月・振)

後期 5月2日(水)～6月3日(日)

墨コレクション 近代の洋装

6月5日(火)～9月30日(日)

尾張の洋画 佐分眞

12月1日(土)～平成31年1月27日(日)

墨コレクション 陣羽織

1月29日(火)～4月7日(日)

たいけんの森 わくわく体験

◆開催日時／土曜・日曜・祝休日(夏休み・冬休み期間中は毎日)午前9時30分～正午・午後1時～4時30分

◆対象／中学生以下

民族衣装を着てみよう オランダ・インドなど

3/31(土)・4/22(日)・5/12(土)・27(日)

戦国のよろいを着てみよう

4/28(土)・30(月・振)・5/3(祝)・16(日)

折り紙で花鳥画 6/2(土)・7/15(日)

モビールで大展覧会 7/21(土)・9/30(日)

クリスマスツリーづくり 12/1(土)・24(月・振)

ねんどで和菓子 平成31年1/5(土)・27(日)

陣羽織をデザイン 2/2(土)・3/31(日)

戦国の鎧を着てみよう わとな編 3/23(土)・24(日)

受講生・会員の募集

古文書講座「古文書にたしむ」

博物館で保管されている江戸時代の村方文書を中心とした解説及びその歴史的背景について学びます。

◆日程／平成30年5月12日～31年2月2日の原則

毎月第2土曜日 午後2時～4時(全10回)

◆対象／市内在住・在勤の16歳以上の方

◆講師／小川朗氏(市文化財保護審議会委員)

◆定員／8人(抽選)

◆受講料等／1000円(教材費)

◆申し込み／はがきに住所(在勤の方は勤務先の所在地)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入し、

「古文書にたしむ希望」と明記の上、博物館まで。

締め切りは4月10日(火)(消印有効)。

博物館キッズクラブ新規会員の募集

今年度は「たいけん」をテーマに活動します。博物館に展示してある様々な資料を見て、制作の裏側や歴史などを学芸員と一緒に調べてみましょう。6月「花鳥画の秘密」、7月「バスツアー」、8月「宮の歴史とお宝を探検」など。

◆対象／小学校3年生～中学生 20人程

◆申込／はがき又はFAXに住所・氏名・学校名・学年・電話番号・保護者名・メールアドレス又はFAX番号を記入の上、博物館「キッズクラブ係」まで。

「いちのみや子育て支援サイト・アプリ」からも申し込み可。締め切りは5月25日(金)(消印有効)。

その後、詳細はメール・FAXにてご連絡します。

利用案内

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
【休館日】毎週月曜日(ただし、祝休日にあたる場合は翌日に休館)、祝日の翌日(ただし、土曜日・日曜日または祝日の場合は開館)、年末年始(12/28～31、1/1～4)

【観覧料】

	一般	高校・大学生	小・中学生
常設観覧料	200円	100円	50円
個人			
20人以上の団体	160円	80円	40円
博物館バスポート(年間観覧券)	800円	400円	200円
ミュージカード(年間共通観覧券)	2,000円	1,000円	500円
常設展示・共通観覧券	400円	200円	100円

※未就学児および市内の小・中学生は無料。市外小・中学生は土曜日無料。
※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。
※身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。
※博物館バスポートおよびミュージカードは、発行から1年間有効。
※博物館バスポートは一宮市博物館の常設展示および特別展示を有効期間中何度でも観覧できます。
※常設展示共通観覧券は、一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧できます。有効期限はありません。
※ミュージカードは、一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示および特別展示を有効期間中何度でも観覧できます。

【特別観覧料】特別展示の観覧料はその都度定めます。企画展は常設観覧料でご覧いただけます。

【無料ゾーン】展示ホール・たいけんの森・ギャラリー



一宮市博物館公式SNS 最新のイベント情報や博物館の日常などを更新しています!



【交通アクセス】
名鉄名古屋本線
「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分
「三ツかえり」バス
「博物館西」下車徒歩5分

〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390番地
TEL0586-46-3215 FAX0586-46-3216 URL http://www.icm-jp.com/

一宮市博物館だより

第61号

発行日／平成30年3月30日
編集・発行／一宮市博物館
印刷／三井堂株式会社